

令和7年度 自己評価書・学校関係評価書

令和8年 3月 10日

真庭市立河内こども園

園長 藤井 裕子 印

1 河内こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

しなやかな心と体で生き生きと生活する子どもの育成

○めざす子どもの姿

「好奇心・探求心のある子ども」(思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ・挑戦力)

「あかるく元気な子ども」(元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性)

「温かい心の子ども」(思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性)

2 本年度の重点目標 (課題)

本年度の研究テーマ (重点的に取り組むこと)

「つなげよう 感じる心 はずむ心 自ら考えようとする姿をめざして」

～基本的生活習慣の確立のもとに～

1 心も体も弾ませて意欲的に環境(人・物・事柄)に関わることができる保育

「こんなことをやってみたい」と心を動かして遊ぶことができる環境づくりを目指し、その中で正しい言葉を聞き、言葉で伝える力を育てていきながら、一人一人がのびのび・生き生きと安心して活動できる園を目指します。また、衛生的食環境を整え、安全でおいしい給食提供を行います。

2 異年齢での関わり、小学校、地域を通してコミュニケーション力をつける

1歳児から5歳児までの異年齢の関りが多く、共に遊ぶ中で、年齢の大きい子どもは年下の友達の思いに気付いたり、考えたりして自然な関わりを大切にします。担任同士がしっかり話をして共通理解のもと保育に生かせるような協力体制を作ります。小学校とも交流機会がもちやすい環境で、園の保育や子ども達の様子を見てもらうことでつながりを大事にしていきます。

3 生活リズム・基本的生活習慣の確立を保護者と共に

子どもの情緒の安定を図り、基本的生活習慣の確立のため相談や、情報提供など園と家庭とが協力する園を目指します。

3 本年度 河内こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価書

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	職員が共通理解し、指導の重点をどこに置くかを話し合いながら、研究テーマに沿った保育に取り組んでいる。ヒヤリハット報告書を丁寧に記入し保育の振り返りができた。	4	4
行 事	園児の発達や育ちを踏まえて計画することができた。給食を食べる様子を見てもらい、園の食に触れる時間がもてた。保護者同士の関わりが広がるような内容の計画も行った。	4	4
組織・運営	園の課題を明確にした経営計画をベースに同僚性を生かした組織作り・園運営をしている。職員数が少ない中での時間の有効活用が課題だった。	3	3
学級経営	寄り添い内面理解をすることを保育の基本とし温かい人間関係を構築している。経験が遊びにつながるよう子どもの育ちに関わっている。	4	4
特別支援教育	家庭の状況を考慮しながら、一人一人の困り感を理解し援助や環境作りをしている。関係機関との連携も大事にしている。	4	4
安全管理・保健指導	避難訓練、交通指導や安全点検を毎月行い、反省を次に生かせるように職員間で考えあう機会をもった。情緒の安定のためメディアコントロールや絵本の貸出しなど家族との時間を大切に取る取組を推奨している。	4	4
研修（資質向上）	園外研修の参加が人員的に難しい日もあり、園外の研修参加ができないこともあった。参加できた時には早めの復命で園内での学べる時間の工夫を心がけた。	3	3
情報提供・保護者・ 地域との連携	保護者と日常的な情報交換に加え、コドモンでの活動記録を写真付きでほぼ毎日保護者に配信している。全員懇談を年に2回行った。	4	4

小学校との接続・連携	園と小学校職員同士が計画を行い、園児・児童が互いに学ぶことのできる交流の場を設けている。今年度は小学生との交流に不安な出来事もあり、話し合いが十分できる環境を整えたい。	3	3
子育て支援	日々の保育の出来事や子どもの様子を保護者に伝え、保護者が必要とした時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。今年度は支援センター、保健師との情報交換がしっかりできた。	4	4
食育の推進（給食）	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちをもてるようにしていると共に、食事のマナー・姿勢について調理担当が視覚的教材を準備し、活用して子どもに伝えていった。	4	4
食事の提供（調理）	調理担当と子どもと職員のコミュニケーションを図ることでより美味しく食べることができるようにしている。調理担当の職員が食事の様子を毎日見に来て、クラス担任とも連携が密に取れている。	4	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評価委員評価 (学校評議員)
信頼される職員	いつも明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。	4	4
健康な心と体	職員の代替が急は難しい環境で職員一人一人が気持ちを張りながら、感染予防に務め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。	4	4

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

評価委員の方には子ども達の様子を一年間行事ごとに見ていただいていたので、子ども達の様子もわかってもらえ、挨拶がよくでき、みんなで（全園児）楽しそうに遊んでいると、子どもの成長も感じていただいた。保護者の方のアンケート結果では概ね良い結果をいただいた。コドモンアプリを使用し始め一年が経った、毎日の様子が写真付きでわかり、自分の子どもが写真に映っていなくても、園での様子が伝わり、子どもとの会話が広がりありがたい。また、地震の時には今の園の避難状況などをすぐに配信され、気にはなりながら仕事をしていた保護者にとってありがたかったと言っていた。評価委員の方にも日々の活動をどのように保護者に伝えているかを見ていただき、写真があり、様子がわかると言っていた。

職員は、年度初め保育・教育目標、保育方針について話し合い、会議に参加できない職員には会議録を早めに作成し共通理解をした。学期ごとに保育・教育計画の見直しをしながら、「こんなことをやってみたい」と心を動かして遊ぶことができる、安心して活動できる園を目指し話し合いを重ねた。共通理解のもとに保育にいかせる協力体制がとれた。また、ヒヤリハットをしっかりと活用できたことがよかった。職員体制では外部の研修に出ていくことが難しいことがある。どのように学び、保育の質の向上に務めるかを園内研修の内容を考えて行えたと感じる。職員の協力体制がどのような場面でもできてきたと考える。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

園児も職員も少人数の園として不利なところや課題をどのように解決していくかを職員で考え合いながら、少人数だからこそその保育の利点を引き続き行っていきたい。評価委員の方が「いつでも話は聞くよ」と言ってくださった。心強い地域の方の力、そして小学校との交流をもちやすい環境の中で、小学校・地域の方との連携を深め、その関わりの中からコミュニケーション力を育ていけるようにしたい。様々な関わりの中で正しい言葉を聞き、言葉で伝える力を育ていけるよう職員・家庭・小学校・地域との信頼関係の構築を引き続き行いたい。

外部講師の2年間の研修後の今年度も研修で学んだ、子どもの一番の理解者になれるように子どもと目線を合わせて生活することを職員間の共通理解の中で保育を行った。子どもの園での姿を保護者にコドモンを活用し、また送迎時の会話で伝えることで保護者と子どもが楽しんで園に来られるような保育を引き続き取り組んでいきたいと思う。